



写真等無断転載禁止

千葉県緑区下大和田町開発計画に係る 環境影響評価準備書が公告されました

ちば環境情報センター 小田信治, 小西由希子

準備書の問題点を整理しました。皆様もぜひ準備書に対する意見書を出してください。(締め切りは3月18日)
「千葉県緑区下大和田町開発計画」をクリックすると意見書用紙が表示されます。 意見書様式 (word)

準備書は美樹観光のHP「千葉県緑区下大和田町開発計画に係る準備書の公表について」で公表されています。
<https://www.mikikanko.com/detail23.html>

① 洪水の恐れがあります

開発予定地周辺は、東金有料道路の雨水排水、若葉区中野町ほか集水域が広大で、現状でも大雨が降ると鹿島川が氾濫し、道路や水田が水没してしまいます。雨水調節機能は水田や森林に依存しており、山林を開発することで被害が拡大する懸念があります。また、県道131号に接続する新設道路が鹿島川を跨ぐ箇所はボックスカルバートの計画ですが、大雨が降ると増大する河川流量を飲み込めなくなり、新設道路の盛土部が鹿島川を堰き止めて、上流部は広く洪水になる懸念があります。



台風13号(2023年9月8日)の大雨で鹿島川が氾濫

② 交通安全上の問題

137万^mの残土を場外に排出するには10tトラックで345台/日の車両が走行することになります。またセンターラインのない県道131号を20tトラックも走るそうで安全上心配です。予測では工事用車両の予測台数が少なく設定されており、大気質、騒音、振動の予測結果の信頼性に懸念があります。

下大和田町17号線は沿道に住宅があり狭いので、極力使用しないようにとの市長意見に対し、準備書には17号線は極力使用しない、と書かれています

が、地元説明会では使用しなければ工事はできないとの事業者の発言があり、準備書の内容と齟齬があります。

新設道路と県道131号との交差点において調査が行われていません。

工事用車両の走行による「安全」の評価項目を追加する必要があります。

③ 自然環境保全、ふれあいの場、景観

計画地を含む地域は、環境省の生物多様性保全上重要な里地里山に指定されていますが、大規模開発により大きく改変される計画になっています。

方法書への市長意見を受けて、谷津田の保全区域は除外されていますが、現在、事業者により谷津田の耕作や立ち入りが禁止され、谷津田の環境劣化が進んでいます。荒れて草が生い茂り「ふる里の原風景」としての景観価値はなくなっています。

開発により森林が伐採されると生態系の頂点に位置する生きものにも影響があり、谷津田を除外しただけでは貴重な生態系は守れません。

④ 湧水、地下水、森林

樹林地は谷津田の水源ですが、大規模に改変されると、地下水・湧水の枯渇など甚大な影響があります。

事業対象地域の75%が山林でその約5割が失われる計画ですが、対策を施さなくても3割しか地下水・湧水への影響がないと計算されており、その根拠が不明です。

森林の機能として、近年激しくなる降雨に対し

て土壌侵食を防ぎ、また落ち葉や林床生物によって形成される表層土壌は保水や水の浄化・栄養供給など多面的な役割を果たしていますが、その視点が欠如しています。

⑤ ロードキル、緑地

緑地のネットワークがなく、幹線道路では動物の交通事故（ロードキル）が懸念されます。

大規模な緑道を配置するとともに、幹線道路の交差部には、哺乳動物（キツネ等）が安心して通れるアニマルパス（ボックスカルバート等の暗渠）を配置することが必要です。

森林の確保面積は森林法に定められた最低限度（25%）で、50ha超の大規模開発では森林は40%以上を確保するのが通例であり、環境に配慮した開発事業とは言えません。

⑥ 準備書の記載不足等

資料編に工事関係の資料「山積み表」がなく、どのような種類の建設機械や工事用車両をいつ、何台使用するのか不明で、環境影響の予測結果の検証ができません。

計画地が市街化調整区域にあり、新設道路予定地は農振農用地の指定があることの記載もありません。この2つの法令指定は、本事業の可否を左右する重要事項です。

植物、動物の既存資料調査では、種数が記載されているだけで、考察がありません。

樹木の伐採等による廃棄物は、15,448,378.8tと予測されていますが処分方法の記載がなく、場外へ搬出する際の工事用車両は残土を桁違いに上回るもので、大気質、騒音、振動での予測評価を見直す必要があり、環境基準を満足する予測結果にはなり得ないと考えられます。

残土の処分方法（場外搬出等）では、搬出先、搬出ルートについての記載がありません。

山形県朝日町エコミュージアムを訪ねて 後編

ちば環境情報センター 千葉市緑区 高山 邦明

3. 朝日町エコミュージアム

人口約6300人の朝日町は、東北のアルプスといわれる朝日連峰、白鷹山地に囲まれる自然豊かな町である。町は森に囲まれているが、林業を生業とする選択肢を採らなかったため、周辺の山にはスギなどの植林がほとんどない。特産物としてりんごとワインが知られている。

朝日町は日本で初めてエコミュージアムの構想を導入したことで有名である。ツアーでは町のエコミュージアムの拠点である「朝日町エコミュージアムコアセンター創遊館」にて同館長岡理事長からお話を伺った。



朝日町にエコミュージアムを持ち込んだのは朝日連峰一帯のブナ林など自然保護に尽力された西澤信雄氏（1948-2023）である。西澤氏は26歳で都会から脱サラし、家族とともに電気も水道も車道もない山深い朝日連峰で山小屋を営み始め、その「朝日ナチュラルリストの家」は登山者や自然愛好家の拠点となり、今でも息子

さんに引き継がれて多くの方が訪れている。

今回のエコツアーでもナチュラルリストの家に宿泊し、周辺のブナ林を散策した。西澤氏は日本に「シェアリングネイチャー」を導入された方でもあり、アメリカからジョセフ・コーネル氏を日本に招いて、その自然体験活動プログラム（ネイチャーゲーム）を「ナチュラルリストの家」で初めて実践した。子供たちと共に地域の自然や文化を探索する「朝日ナチュラルリストクラブ」を主宰していた西澤氏は、山梨での集まりでエコミュージアムのことを知り、1989年に町民と役場職員有志でエコミュージアム研究会を発足させ、埼玉大学の新井重三氏（博物館学研究者でエコミュージアムの概念を日本に本格的に紹介し、普及に貢献した人物）を招へいするなど意欲的に学んだ。

「乱開発を止め、地域環境を大切にし、人々の生活や伝統に学び、誇りを持って暮らせる地域づくりをしよう」と呼びかけ、「生活環境を大切にしながら楽しく暮らしていけるまちづくり」を朝日町に提案した結果、町長が同調し、1991年にエコミュージアムの理念を取り入れた「第三次朝日町総合開発構想・基本計画」が策定された。エコミュージアムは、①町全体が博物館であり、住民一人一人が学芸員、②地域に元々あるものに価値を「見出し」、それを「活かす」ものである。基本計画では朝日町にとってのエコミュージアムの位置づけを「都会には都会の良さがあるが、地方には地方の良さがある。それをきちんと見極め、都会の幻想に捉われることなく、私達の町固有の生活を楽しみ、誇りを持って生活していこうとするスタイルこそ朝日町にとってのエコミュージアムです」としている。

町の自然、文化、産業、各々の遺産の中から、大切なものを選び、「サテライト」、すなわち現地見学場所として取り上げている。1999年には朝日町エコミュージアム案内人の会が発足、翌2000年にNPO法人朝日町エコミュージアム協会が作られた。協会は行政と町民が一緒に活動することを原則としており、行政のトップが変わっても活動が影響されない形となっている。協会は町から資金サポート（年間200万円）を受け、



① 地域の自然、歴史、産業等を調査・研究し、保存、② それらをテーマにしたシンポジウムや見学会を開催、③ 調査・研究結果をまとめた冊子やちらし等（エコミュージアムだより、エコミュージアムの小径など）を作り、全町民に配布、④ HP等で町外に情報発信といった役割を担っている。案内人の会には町民十数人が登録し、これまでに町内外の保育園、小学校、クラブツーリズムなど600人ほどを案内している。

エコミュージアムは1990年代に日本各地で作られたがそのほとんどが下火となってしまっている中で朝日町で現在まで継続できているのはそれが町づくりの基本理念に明確に取り込まれ、行政と町民がタグを組んで推進してきたためである。しかし、近年は町民の高齢化が課題となっており、移住の促進や町おこし協力隊との連携など対策を講じている。

4. エコミュージアム構想と谷津田保全

ちば環境情報センターでは長年にわたり、千葉市緑区の下大和田や小山の谷津田の保全活動を行っている。

直接的な活動の場は田んぼであったり、林であったりするが、谷津田の保全には個々の場所やそこに住む生きものだけでなく、田んぼや斜面林、台地の上の林や畑の相互のつながりを谷津全体を視野に入れて考えていくことが求められる。

生きものに環境の境界はなく、水は環境をまたがって流れているからだ。また、谷津の自然を育んできた最も大切な要素は人々の関わりであり、農業や林業、生活のために人々が関わることに自然が反応し、調和することによって豊かな自然が築かれてきた。一方、人々の側にも自然とへの関与によって育まれた伝統や慣習、技術など文化がある。

従って、谷津田保全には単に田んぼの自然環境を整えるだけでなく、谷津全体を俯瞰するマクロの視点、人々との関わりを包括的に把握、理解することが必須であり、「エコミュージアム」の発想が谷津田保全に有効と考えられる。実際、千葉市が平成11年にまとめた「千葉市野生動植物の保全施策指針（平成11年）」では自然保護施策を効果的に展開するためのリーディングプロジェクトとして、「谷津田の自然」を野生生物保全の拠点として確保することを目指した「エコミュージアム構想」を掲げている。

しかし、たとえば、フィールドミュージアム的に大草谷津田生きもの里が千葉市により整備されているがエコミュージアムのようにそこで暮らしている住民の積極参加、地域の歴史、文化、生活の理解や研究には至っていない。一方で谷津田を支えてきた農家では後継者がいない中で高齢化が進み、田んぼの休耕や放棄、引き継がれない文化の喪失が急速に進んでいる。こうした状況の谷津の保全にエコミュージアム的な発想、アプローチがうまく適用できるのではないかと思う。

ちば環境情報センターでは谷津田プレーランドプロジェクト（YPP）の活動の一環として、下大和田地区を対象に「谷津田まるごと図鑑」を作成したことがあり、その過程で地域の文化や伝統の発掘を試みた。

今回、朝日町エコミュージアムを訪れたことをきっかけに、まるごと図鑑的な発想を広げ、たとえば、小山町のような住民との関わりが重要な場所での谷津田保全にエコミュージアムの考え方がどのように適用できるのか考えていきたい。

新浜の話 97 ～導流堤改修工事～

トヨタ財団の研究コンクールで最優秀賞をいただいた頃、民間団体ががんばっているのだから、行政でも丸浜川の汚れを何とかせよ、という動きがありました。南船橋にある千葉県の葛南土木事務所が河川や海を管轄しています。コンサルタント会社に改造プランが依頼されたとのことで、友の会会長の東良一さんと一緒に葛南土木事務所に伺いました。その時の会社のご説

明。「魚が住むように、瀬があって、淵もあって、ワンドも作って」あまりにも現場とかけ離れたプランに驚いて、「丸浜川の高低差はどのくらいですか？」と伺うと、「高低差はほとんどありません」「それで瀬や淵ができますか？」「いやあ、自然保護団体の方は、何でも反対されますからねえ」ほんとうにびっくりしました。

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

スロマン 作: 7月 好きに おきに

61



豊かな自然環境なしには、豊かな人間生活は有り得ない! (作者談)

当時はやった「ビオトープ」とか「ミチゲーション」等のことば、徹底的に嫌いになったのはこの時かもしれません。水辺のビオトープと言えば、生け垣や芝生、アシ原といったオランダやイギリスの風景。日本には水田という立派な湿地環境があるのに。まあ、そういうスタートから次第にこなれてきたわけですからね。

丸浜川は埋め残しの海で、雑排水の流路。雨が降ると海に面した排水機場でせつせと排水が行われ、晴天だと排水されないのて徐々に水位が上がります。「今日はずいぶん水が少ないんですね」「雨が降っているからです」説明を聞いた方がきょとんとされる会話。おまけにややこしいことには、地形としての下流は南の浦安との境にある猫実排水機場なのに、暗渠の角度や深さによる排水方向は行徳駅から海に向かった北の湊排水機場。雨天時のみ生じる流れは地形上では上流方向に向かいます。

こんなこともありました。たしか1997年1月2日夜、彼女と(この年結婚)やってきた息子が「丸浜川、いつもこんなに水位が高いの?」と言いました。見ると、ふだんは水面から50cm以上も高い岸の餌場が水没しています。これはおかしい、と見に行くと、福栄公園の端にある暗渠に水がざあざあ流れ込んでいるではありませんか。担当である排水課に電話を入れて、あたりをまわってみました。当時のDマート(今はヤマダ電機)前の30m道路をはじめ、街路や小さい公園があちこちで冠水しています。何でも猫実排水機場の管理の方が干潮時に水門を開けたところで倒れられ(後に亡くなられたと聞きました)、水門が開いたままになったとのこと。1月2日の深夜であまり人に知られることもなく、幸いに小潮で風もなかったのて、大事には至りませんでした。大潮で南東風だったら行徳全体が冠水し、地下の店舗や駐車場はたいへんなことになっていたはず。

浄化を目的とした丸浜川の改修工事は、1994年度から3年がかりで行われました。まず表層の浮泥(いわゆるヘドロ)を除去、その後元と同じ水深にするための砂入れ。トヨタ財団の研究コンクールで得られた調査結果から、汚濁が進んだ水域は10cmでも深くしたら逆効果、泥をとっても浅くなるよう仕上げなくてはいけない、ということを理解、納得していただけてよかったです。

老朽化した導流堤の改修は2008年度末から。分厚い鋼矢板は歳月を経てあちこちに穴が開き、中の土が流失したところも。導流堤で隔てられた保護区の海は東京湾とつながっているのて、大きな地震や台風で万一決壊したら、0m地帯の行徳一帯は浸水してしまいます。幸いに県の予算化ができて、土や石を腹付けする(今ある堤防の両側に土、海側は石を盛る)という計画が立てられ、これも数年がかりで実現しました。着工からさいごの仕上げは2013年度でしたが、幸いに2011年の東日本大震災の時には堤防の機能にかかわる大きな修復は終わっていました。

工事のため、ゴイサギがねぐらにしていた桜の木が切られ、以後ゴイサギが消えたのは残念でした。

【発送お手伝いのお願い】ニューズレター2026年 4月号(第344号)の発送を 4月 6日(月) 10時から千葉市民活動支援センター(千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階)にておこなう予定です。お手伝いいただける方は小西 090-7941-7655)までご連絡ください。

..... あなたも入会しませんか
 住所〒 _____
 ふりがな _____
 氏名 _____ Tel _____
 E-mail _____
 会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

編集後記: つくろい物が好きだ。膝小僧の穴にアプリケを付けたズボンを、孫がうれしそうにはいている。靴下のほころびなどを見つけると「ばばちゃんこれ」と持ってくる。針と糸でよみがえっていく様がおもしろくてうれしいよな。母がやっていた繕い物を私もやっている。
 mud-skipper ♀

☆第 239(3) 回 小山町 YPP「林の手入れ」 2月23日(月) くもり 報告：高山邦明

最後に残った林のシノ竹を刈り、今季予定していた場所の伐採を終えました。今まで目隠しするように林縁にあったヤブがなくなって林の中が見通せるようになり、気持ちのよい林に変身しました。これでイノシシも出づらくなるかな？大量に出た竹は林の斜面の裾野に置いて土留めにし、その作業を終えれば今季の林の手入れは一段落です。

参加者5名(大人5名)

☆小学校田んぼの活動

今年度の小学校田んぼの活動の最後として収穫したお米から作った麴を使った味噌づくりをしました。あすみが丘小学校は2月2日(月)、大椎小学校は2月6日(金)に実施しました。

【谷津田・季節のたより】 2026年 2月

<下大和田町> 報告 平沼勝男

2/1 (晴れ) コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、アカハラ、シメ、アオジ、ガビチョウ 2/8 (雪) キジバト、シジュウカラ、アカハラ、セグロセキレイ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ キジバトとアオジは雪のない道路で餌(植物の種など)をついばんでいた。 2/15 (晴れ) ニホンアカガエルの卵塊1個、今年初の確認。恐らく産んで2日目。 2/22 (晴れ) キジバト、トビ、ノスリ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ホオジロ、カシラダカ、アオジ

<小山町> 報告 高山邦明

2/1 メジロが梅の花の蜜を吸いに訪れる。ヒヨドリはツバキの花に。畑でハクセキレイとセグロセキレイと一緒に餌を探していた。 2/5 畑の縁にあるイロハモミジで5羽のウソが芽を食べていた。 2/9 久しぶりのまとまった雪で一面銀世界。畑の雪の上にイノシシやノウサギ、イタチの足跡があった。 2/13 2羽のオオタカと一緒に飛んでいた。 2/15 日中気温が上がり、春の陽気。ヤマガラやシジュウカラ、ガビチョウがさえざり、ルリタテハが舞う。 2/16 林の中でオスのヤマドリが低い声を出しながら歩き、時折止まってほろ打ちをする。 2/17 ニホンアカガエルの卵塊を今季初めて見る。雨だった前の晩に産卵したものと思われる。 2/18 気温が高めで氷がない田んぼでクサシギが入念に毛づくろいをしていた。 2/26 アカガエルがあちこちの田んぼで産卵してあった。イヌシデの芽吹きが始まる。 2/27 フキノトウが顔を出す。

【イベントのお知らせ】 主催：NPO法人 ちば環境情報センター

<下大和田谷津田> 連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655, E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com

・森と水辺の手入れ

日時：2026年 3月15日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内容：マイ田んぼ復活のための整備と森の木の整備などを行います。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・第314回 下大和田YPP「米づくり説明会&野草を食べる会」

日時：2026年 3月20日(金) 祝日 9時45分～12時 雨天中止

内容：野草を食べる会と平行して、2026年度の谷津田の米づくり説明会を実施します。

持ち物：動きやすい服装、長靴、お弁当、お椀、飲み物、敷物など。 参加費：300円(小学生以上)

・森の手入れ

日時：2026年 3月22日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内容：森の木の整備や下草刈りを行います。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・第315回 観察会とゴミ拾い

日時：2026年 4月 5日(日) 9時45分～12時 雨天決行

内容：春の花の季節到来です。ウグイスの囀りを聞きながら谷津を巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、ゴミ袋、敷物 参加費：100円

<小山町谷津田>

・第240回 小山町 YPP「林の手入れ」 伐採した竹や木を林の斜面に置いて土留めにする作業をします。

日時：2026年 3月8日(日) 9時～12時 ☆小雨決行

場所：小山町谷津田(千葉市緑区)

持ち物：できればくるぶしまで覆う丈夫な靴や長靴・軍手・飲み物

・第241回(1~4) 小山町 YPP「畦づくり」・第242回(1~2) 小山町 YPP「苗代づくり」

今年の米づくりに向けて、冬の間に荒れた畦を補修します。

日時：第241回-2026年3月13日(金)、18日(水)、22日(日)、23日(月)

第242回-2026年3月27日(金)、29日(日) いずれも9時～12時 ☆小雨決行

場所：小山町谷津田(千葉市緑区)

持ち物：田んぼ用長靴・防水手袋・飲み物

